令和6年度前期科目等履修生　開講科目一覧

科目区分	No.	授業科目の名称	配当年次	単位数	開講時期	開講曜日	開講時限	担当教員
専門	1	特別研究C（経営のリスクマネジメント）	2年	2	第5クォーター（4月～6月）	火曜	6･7限(18:30-21:30)	七田　良彦
専門	2	社会イノベーション	2年	2	第5クォーター（4月～6月）	水曜	6･7限(18:30-21:30)	露木　真也子
専門	3	医療介護の制度経営	2年	2	第5クォーター（4月～6月）	木曜	6･7限(18:30-21:30)	島川　龍載
基礎	4	マーケティングA＜広島キャンパス開講＞	1年	1	第1クォーター 隔週前半（4月～6月）	金曜	6･7限(18:30-21:30)	江戸　克栄 岡田　浩一
基礎	5	マーケティング演習＜広島キャンパス・金曜開講＞	1年	1	第1クォーター 隔週後半（4月～6月）	金曜	6･7限(18:30-21:30)	江戸　克栄 岡田　浩一
基礎	5	マーケティング演習＜広島キャンパス・土曜開講＞	1年	1	第1クォーター 隔週後半（4月～6月）	土曜	1･2限(09:00-12:10)	江戸　克栄 岡田　浩一
基礎	6	経営戦略<福山市開講>	1年	1	第1クォーター 隔週後半（4月～6月）	土曜	1･2限(09:00-12:10)	早田　吉伸
基礎	4	マーケティングA<福山市開講>	1年	1	第1クォーター 隔週前半（4月～6月）	土曜	1･2限(09:00-12:10)	江戸　克栄 岡田　浩一
基礎	5	マーケティング演習<福山市開講>	1年	1	第1クォーター 隔週前半（4月～6月）	土曜	3･4限(13:00-16:10)	江戸　克栄 岡田　浩一
応用	7	特別研究B（IoT社会のビジネス創造）	2年	2	第5･6クォーター 隔週 ※別紙参照	土曜	1･2限(09:00-12:10)	土本　康生
専門	8	医療介護の事業経営	2年	2	第6クォーター（6月～8月）	火曜	6･7限(18:30-21:30)	的打　英明
応用	9	戦略としての社会システムデザイン	1年	2	第2クォーター（6月～8月）	水曜	6･7限(18:30-21:30)	横山　禎徳
専門	10	デザインマネジメント	2年	1	第6クォーター 前半（6月～7月）	水曜	6･7限(18:30-21:30)	百武　ひろ子
専門	11	地域ブランド戦略	2年	1	第6クォーター 後半（7月～8月）	水曜	6･7限(18:30-21:30)	樫野　孝人
基礎	12	ファイナンス基礎	1年	1	第2クォーター 隔週前半（6月～8月）	木曜	6･7限(18:30-21:30)	高橋　陽二
基礎	13	中四国経済	1年	1	第2クォーター 隔週後半（6月～8月）	金曜	6･7限(18:30-21:30)	高橋　龍二
専門	14	特別研究A（グローバルビジネスマネジメント）	2年	2	第6クォーター（6月～8月）	金曜	6･7限(18:30-21:30)	毛利　信作
基礎	15	企業法務	1年	1	第2クォーター 前半（6月～7月）	土曜	1･2限(09:00-12:10)	安達　巧
基礎	16	組織マネジメントとコンプライアンス	1年	1	第2クォーター 後半（7月～8月）	土曜	1･2限(09:00-12:10)	安達　巧
基礎	17	アカウンティング	1年	2	第2クォーター（6月～8月）	土曜	3･4限(13:00-16:10)	中川　隆喜

令和6年度前期科目等履修生　開講科目一覧

科目区分	No.	授業科目の名称	配当年次	単位数	開講時期	開講曜日	開講時限	担当教員
専門	18	医療介護のイノベーション	2年	2	第6クォーター（6月～8月）	土曜	3･4限(13:00-16:10)	遠藤　邦夫
基礎	19	ベンチャーの経営戦略	1年	2	夏季集中（8月～9月）※別紙参照	集中	※別紙参照	古我　知史
専門	20	特別研究H(医薬流通のイノベーション)	2年	2	夏季集中（8月～9月）※別紙参照	集中	※別紙参照	遠藤　邦夫
専門	21	特別研究D(マネジメントアカウンティング)	2年	2	夏季集中（8月～9月）※別紙参照	集中	※別紙参照	七田　良彦
専門	22	アジア型環境ビジネス創造	2年	2	夏季集中（7月～8月）※別紙参照	集中	※別紙参照	礒貝　日月

※　表中の授業の概要及び開講時期(日程)は変更することがあります。
※　各科目の開講日時は決定次第、公開(更新)します。

【授業時間】
平日　6･7限 18:30～21:30

【授業時間】1･2限　9:00～12:10
土日　3･4限 13:00～16:10
5･6限 16:20～19:30

第1･5クォーター授業開講日程一覧（2024年度科目等履修生）

Q	科目名称	曜日	教員名	教室	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回	第13回	第14回	第15回	第16回
Q1	マーケティングA<広島キャンパス開講>	金(隔週前)	江戸･岡田	1275	4/12		4/26		5/17		5/31									
	マーケティング演習<広島キャンパス･金曜開講>	金曜(隔週後)	江戸･岡田	1275	4/19		5/10		5/24		6/7									
	マーケティング演習<広島キャンパス･土曜開講>	土1･2(隔週後)	江戸･岡田	1275	4/13		4/27		5/18		6/1									
	経営戦略<福山市開講>	土1･2(隔週後)	早田	福山	4/13		4/27		5/18		6/1									
	マーケティングA<福山市開講>	土1･2(隔週前)	江戸･岡田	福山	4/6		4/20		5/11		5/25									
	マーケティング演習<福山市開講>	土3･4(隔週前)	江戸･岡田	福山	4/6		4/20		5/11		5/25									
Q5	特別研究C(経営のリスクマネジメント)	火	七田	1278	4/9		4/16		4/23		5/7		5/14		5/21		5/28		6/4	
	社会イノベーション	水	露木	1278	4/10		4/17		4/24		5/8		5/15		5/22		5/29		6/5	
	医療介護の制度経営	木	島川	1278	4/11		4/18		4/25		5/9		5/16		5/23		5/30		6/6	
	特別研究B(IoT社会のビジネス創造)	土1･2 隔週	土本	1278	4/13		4/27		5/18		6/1		6/15		6/29		7/13		7/27	

第2･6クォーター授業開講日程一覧　（2024年度科目等履修生）

Q	科目名称	曜日	教員名	教室	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回	第13回	第14回	第15回	第16回
Q2	戦略としての社会システムデザイン	水	横山	1275	6/12		6/19		6/26		7/3		7/10		7/17		7/24		7/31	
	ファイナンス基礎	木(隔週前)	高橋陽	1275	6/13		6/27		7/11		7/25									
	中四国経済	金(隔週後)	高橋龍	1275	6/21		7/5		7/19		8/2									
	企業法務	土1･2(前半)	安達	1275	6/8		6/15		6/22		6/29									
	組織マネジメントとコンプライアンス	土1･2(後半)	安達	1275	7/6		7/13		7/20		7/27									
	アカウンティング	土3･4	中川	1275	6/8		6/15		6/22		6/29		7/6		7/13		7/20		7/27	
Q6	医療介護の事業経営	火	的打	1278	6/11		6/18		6/25		7/2		7/9		7/16		7/23		7/30	
	デザインマネジメント	水(隔週前)	百武	1278	6/12		6/26		7/10		7/24									
	地域ブランド戦略	水(隔週後)	樫野	1278	6/19		7/3		7/17		7/31									
	特別研究A(グローバルビジネスマネジメント)	金	毛利	1278	6/14		6/21		6/28		7/5		7/12		7/19		7/26		8/2	
	医療介護のイノベーション	土3･4	遠藤	1278	6/8		6/15		6/22		6/29		7/6		7/13		7/20		7/27	

Q2 夏期	ベンチャーの経営戦略（古我）	集中(2-5限)	1275	古我	8/10(オンライン)		8/31(対面)			9/1(対面)		9/21(対面)	
Q6 夏期	アジア型環境ビジネス創造	集中	1278	礒貝	7/28(日) 1-4限		8/3(土) 5,6限	8/4(日) 1-4限			8/17(土) 5,6限	8/18(日) 1-4限	
	特別研究D(マネジメントアカウンティング)	集中	1278	七田	8/3(土) 3,4限	8/17(土) 3,4限	8/24(土) 3,4限	8/31(土) 3,4限		9/6(金) 6,7限	9/13(金) 6,7限	9/20(金) 6,7限	9/28(土) 3,4限
	特別研究H(医薬流通のイノベーション)	集中(土1･2)	1278	遠藤	8/5	8/19	8/26	9/2		9/9(3,4限)	9/10(日)	9/16(3,4限)	9/17(日)

令和6年度授業日程について

期	クォーター	授業期間
前期	第1･5	4月6日(土)～6月7日(金)
	第2･6	6月8日(土)～8月2日(金)

2　時間割について

平日（月曜日～金曜日）	
時限	時　間
—	—
—	—
—	—
—	—
—	—
6	１８：３０～２０：００
7	２０：００～２１：３０

土曜日	
時限	時間
1	０９：００～１０：３０
2	１０：４０～１２：１０
3	１３：００～１４：３０
4	１４：４０～１６：１０
5	１６：２０～１７：５０
6	１８：００～１９：３０
—	—

科目名					
特別研究 C（経営のリスクマネジメント）					
担当教員					
七田　良彦					
配当年次	**単位数**	**科目区分**	**開講時期**	**曜日**	**時限**
２年	2	専門	第 5 クォーター （4 月～6 月）	火曜	6･7 限（18:30-21:30）
授業の概要					
企業経営に必要とされるリスクマネジメント知識の習得とその活用に関わる意思決定の在り方等を学習する。事業会社を取り巻く様々なリスクへの対処、新規案件の投資判断等、に必要とされるリスクマネジメントリテラシー、財務リテラシー等を様々な実務事例（ケーススタデイ等）を通じて習得することを目指す。講師の実務体験に基づいた、国内外における各事業にて対応した様々なリスク（アジア通貨危機、リーマンショックに伴う世界的な米ドル流動性枯渇、コンプライアンス事案にかかわる危機対応等）や国内外における新規事業の立ち上げの事例紹介等を通じ、リスクマネジメントの実務等を学習することが特徴である。一般的にこれらの事業は、大企業の経営幹部が意思決定の際に必要な経営リスクマネジメント分析と考えられるが、中小企業やベンチャー企業等の経営人材にこそ習得してもらいたい科目である。具体的な事業案件（ケース事案、含む様々な日経新聞の記事等）を元に、毎回、様々な意見交換やグループワーク等を行う。					
【備　考（履修上のアドバイス・禁止行為等）】					
基礎科目におけるｱｶｳﾝﾃｨﾝｸﾞやファイナンスの知識を活用する。講義の内容や講義内で紹介する日経新聞等の経済記事を通じ、世の中の経済現象（含む身の回りの出来事等）を「我が事」として理解し、企業を取り巻く様々なリスクに関わる知識（見える化ほか）を学び、企業経営を継続的に実行できる経営力を体得する事を目指す。					
【履修条件】					
なし					
【注意事項】					
なし					

令和６年度前期聴講生開講科目　概要及び開講時期

<table>
<tr><th colspan="6">科目名</th></tr>
<tr><td colspan="6">社会イノベーション</td></tr>
<tr><th colspan="6">担当教員</th></tr>
<tr><td colspan="6">露木　真也子</td></tr>
<tr><th>配当年次</th><th>単位数</th><th>科目区分</th><th>開講時期</th><th>曜日</th><th>時限</th></tr>
<tr><td>２年</td><td>２</td><td>専門</td><td>第５クォーター
（４月～６月）</td><td>水曜</td><td>６･７限（18:30-21:30）</td></tr>
<tr><th colspan="6">授業の概要</th></tr>
<tr><td colspan="6">社会を変える社会イノベーションの取り組みやその担い手である社会起業家は、決して特殊な成功事例や歴史的英雄のような人物のことではない。身近な出来事から社会的課題に気づき、ユニークな視点から解決の糸口となるアイディアを発想し、持続可能な事業モデルを構築する。生み出された新たな事業モデルはどのように広まっていくのか。「アショカ」を始めとした代表的な支援機関による社会起業家の概念定義、国内外の社会イノベーション・社会起業家研究の系譜、イノベーション普及論の観点からの事例研究等について講義するとともに、第一線で活躍する社会起業家をゲスト講師に招く機会を設け、社会イノベーションおよび社会起業（家）について理論と実践の両面から理解を深める。</td></tr>
<tr><th colspan="6">【備　考（履修上のアドバイス・禁止行為等）】</th></tr>
<tr><td colspan="6">本講義は座学中心であるが、知識と実践の両面から社会イノベーションへの理解を深める趣旨であるため、自身の経験や興味関心をもとに、主体的に事前学習・復習・授業参加できることが望ましい。
※ゲスト講師調整の都合により、授業計画に記載した講義内容の順番とゲスト講義日程は変更となる可能性がある。</td></tr>
<tr><th colspan="6">【履修条件】</th></tr>
<tr><td colspan="6">なし</td></tr>
<tr><th colspan="6">【注意事項】</th></tr>
<tr><td colspan="6">なし</td></tr>
</table>

令和６年度前期聴講生開講科目　概要及び開講時期

<table>
<tr><th colspan="6">科目名</th></tr>
<tr><td colspan="6">医療介護の制度経営</td></tr>
<tr><th colspan="6">担当教員</th></tr>
<tr><td colspan="6">島川　龍載</td></tr>
<tr><th>配当年次</th><th>単位数</th><th>科目区分</th><th>開講時期</th><th>曜日</th><th>時限</th></tr>
<tr><td>２年</td><td>２</td><td>専門</td><td>第５クォーター
（４月～６月）</td><td>木曜</td><td>６･７限（18:30-21:30）</td></tr>
<tr><th colspan="6">授業の概要</th></tr>
<tr><td colspan="6">わが国の社会保障給付費は 130 兆円を超え、そのうち国民医療費と介護給付費を合わせるとおよそ 60 兆円となり、今後もしばらくは増え続けることが予想される。
これらを支える社会保障制度は、国による経営、すなわちマネジメントが必要であり、限られた資源となるヒト、モノ、カネ、情報をやり繰りすることで、社会保障の提供体制を持続させることにつながる。この持続可能性をいかに高めることができるかが、制度経営の本質である。
本講義では、わが国の社会保障制度の柱の一つである国民皆保険制度や介護保険制度の役割を考えることで医療介護保障の制度政策の理解を深めていくとともに、関連するヘルスケア（医療介護・福祉）の諸制度や国や地方自治体の運営の特徴について説明することで、わが国の制度政策がいかにヘルスケアビジネスと密接に関係しているか理解することを目的としている。
さらに、ヘルスケア分野の制度政策からみた経営課題を理解し、ヘルスケア産業の将来を考え、各々のビジネスに応用できるようになるため、各々のビジネスにおける課題意識を深堀することを念頭に、知識の習得と合わせてディスカッションによる双方向での対話を重視する。今後のヘルスケア分野の発展は、事業の多角化戦略を考える必要があり、さらに専門性の高い幅広い知識の取得が必要となることから、事前学習と学びの復習に十分な時間を要する。
なお、本講義では、ヘルスケア分野の制度・政策を理解し、ビジネス業界で活躍するゲスト講師を招いて、最近の制度政策を踏まえた経営事情を学ぶ機会を設ける。</td></tr>
<tr><th colspan="6">【備　考（履修上のアドバイス・禁止行為等）】</th></tr>
<tr><td colspan="6">ヘルスケア分野の経営の専門性の理解を深める講義であるため、第４Q の「医療介護経営序説」を履修していることが望ましいが、テキストや参考文献の事前学習を行うことで理解可能な講義構成としている。</td></tr>
<tr><th colspan="6">【履修条件】</th></tr>
<tr><td colspan="6">なし</td></tr>
<tr><th colspan="6">【注意事項】</th></tr>
<tr><td colspan="6">なし</td></tr>
</table>

令和 6 年度前期聴講生開講科目 概要及び開講時期

<table>
<tr><th colspan="6">科目名</th></tr>
<tr><td colspan="6">マーケティング A＜広島キャンパス開講＞</td></tr>
<tr><th colspan="6">担当教員</th></tr>
<tr><td colspan="6">江戸 克栄
岡田 浩一</td></tr>
<tr><th>配当年次</th><th>単位数</th><th>科目区分</th><th>開講時期</th><th>曜日</th><th>時限</th></tr>
<tr><td>1 年</td><td>1</td><td>基礎</td><td>第1クォーター
隔週前半
（4 月～6 月）</td><td>金曜</td><td>6・7 限（18:30-21:30）</td></tr>
<tr><th colspan="6">授業の概要</th></tr>
<tr><td colspan="6">ビジネスを取り巻く市場や環境が激しく変化している現代社会において、企業が存続・ 成長していくためにマーケティングの重要性は今まで以上に増している。そのため、本講義では、伝統的マーケティングマネジメントだけではなく、近年重要性を増してきている、 顧客志向、関係構築、グローバル化、情報化社会とマーケティングをテーマとする。講義 で扱う事例は広範囲にわたっており、そこからマーケティングそしてその基本的プロセス を体系的に習得する。</td></tr>
<tr><th colspan="6">【備 考（履修上のアドバイス・禁止行為等）】</th></tr>
<tr><td colspan="6">マーケティング入門を受講されることが望ましい。
積極的な姿勢で授業に臨むこと。</td></tr>
<tr><th colspan="6">【履修条件】</th></tr>
<tr><td colspan="6">経営学部や商学部でのマーケティングの基本部分を理解しているという前提で授業を進めます。よって、次のような方は、別途実施予定の「マーケティング入門」を受講すること。
（「マーケティングA」を受講される方には当講座をご受講頂けるようご案内いたします））
①マーケティングミックス（4P）を言えない ②市場細分化と市場ターゲットを説明できない
③今まで、マーケティングの授業を受けた記憶がない</td></tr>
<tr><th colspan="6">【注意事項】</th></tr>
<tr><td colspan="6">「マーケティング A」の履修が「マーケティング B」（後期開講予定）の履修条件となるため、履修を検討している方は「マーケティング A」を先に履修ください。</td></tr>
</table>

令和６年度前期聴講生開講科目　概要及び開講時期

<table>
<tr><th colspan="6">科目名</th></tr>
<tr><td colspan="6">マーケティング演習＜広島キャンパス・金曜開講＞</td></tr>
<tr><th colspan="6">担当教員</th></tr>
<tr><td colspan="6">江戸　克栄
岡田　浩一</td></tr>
<tr><th>配当年次</th><th>単位数</th><th>科目区分</th><th>開講時期</th><th>曜日</th><th>時限</th></tr>
<tr><td>１年</td><td>1</td><td>基礎</td><td>第１クォーター
隔週後半
（4 月～6 月）</td><td>金曜</td><td>6・7 限（18:30-21:30）</td></tr>
<tr><th colspan="6">授業の概要</th></tr>
<tr><td colspan="6">ビジネスを取り巻く市場や環境が激しく変化している現代社会において、企業が存続・ 成長していくためにマーケティングの重要性は今まで以上に増している。そのため、本演習では、伝統的マーケティングマネジメントだけではなく、近年重要性を増してきている、 顧客志向、関係構築、グローバル化、情報化社会とマーケティングをテーマとして、議論やディスカッションを行う。ここで扱う事例は広範囲にわたっており、そこからマーケティングそしてその基本的プロセスを体系的に習得する。</td></tr>
<tr><th colspan="6">【備　考（履修上のアドバイス・禁止行為等）】</th></tr>
<tr><td colspan="6">マーケティング入門を受講しておくことが望ましい。積極的な姿勢で授業に臨むこと。</td></tr>
<tr><th colspan="6">【履修条件】</th></tr>
<tr><td colspan="6">「マーケティング A」を履修すること。</td></tr>
<tr><th colspan="6">【注意事項】</th></tr>
<tr><td colspan="6">なし</td></tr>
</table>

令和６年度前期聴講生開講科目　概要及び開講時期

<table>
<tr><th colspan="6">科目名</th></tr>
<tr><td colspan="6">マーケティング演習＜広島キャンパス・土曜開講＞</td></tr>
<tr><th colspan="6">担当教員</th></tr>
<tr><td colspan="6">江戸　克栄
岡田　浩一</td></tr>
<tr><th>配当年次</th><th>単位数</th><th>科目区分</th><th>開講時期</th><th>曜日</th><th>時限</th></tr>
<tr><td>１年</td><td>1</td><td>基礎</td><td>第１クォーター
隔週後半
（4 月～6 月）</td><td>土曜</td><td>1･2 限（09:00-12:10）</td></tr>
<tr><th colspan="6">授業の概要</th></tr>
<tr><td colspan="6">ビジネスを取り巻く市場や環境が激しく変化している現代社会において、企業が存続・ 成長していくためにマーケティングの重要性は今まで以上に増している。そのため、本演習では、伝統的マーケティングマネジメントだけではなく、近年重要性を増してきている、 顧客志向、関係構築、グローバル化、情報化社会とマーケティングをテーマとして、議論やディスカッションを行う。ここで扱う事例は広範囲にわたっており、そこからマーケティングそしてその基本的プロセスを体系的に習得する。</td></tr>
<tr><th colspan="6">【備　考（履修上のアドバイス・禁止行為等）】</th></tr>
<tr><td colspan="6">マーケティング入門を受講しておくことが望ましい。積極的な姿勢で授業に臨むこと。</td></tr>
<tr><th colspan="6">【履修条件】</th></tr>
<tr><td colspan="6">「マーケティング A」を履修すること。</td></tr>
<tr><th colspan="6">【注意事項】</th></tr>
<tr><td colspan="6">なし</td></tr>
</table>

令和６年度前期聴講生開講科目　概要及び開講時期

<table>
<tr><th colspan="6">科目名</th></tr>
<tr><td colspan="6">経営戦略<福山市開講></td></tr>
<tr><th colspan="6">担当教員</th></tr>
<tr><td colspan="6">早田　吉伸</td></tr>
<tr><th>配当年次</th><th>単位数</th><th>科目区分</th><th>開講時期</th><th>曜日</th><th>時限</th></tr>
<tr><td>１年</td><td>1</td><td>基礎</td><td>第１クォーター
隔週後半
（4 月～6 月）</td><td>土曜</td><td>1･2 限（09:00-12:10）</td></tr>
<tr><th colspan="6">授業の概要</th></tr>
<tr><td colspan="6">本授業は、経営戦略の基礎的な理論やフレームワークを習得するとともに、グループワークを通じて、その内容を実務の中で使えるよう学習する。講義は、レクチャーとグループワークを交互に行い、知識習得にとどまらず、使えるスキルにしていくことを目指す。受講者自らの職務経験やそこから生じる問題意識をもとにした対話をベースに講義を行い、経営戦略に対する理解を深めていく。
全体の流れとしては、まずは、基本的な経営戦略の意義と基本概念、事業戦略、全社戦略について、経営理論やフレームワークをおさえながら学習する。次に、今日的な課題である戦略マネジメント、企業変革、ビジネスモデルについて、最新の事例なども交えて学習する。最後に、受講者ひとりひとりの経営課題を取り上げ、これまでの学習内容をもとに、解決策を立案しプレゼンテーションする。</td></tr>
<tr><th colspan="6">【備　考（履修上のアドバイス・禁止行為等）】</th></tr>
<tr><td colspan="6">受講者自らの職務経験を振り返り、これまでの経験を生かした活発な議論を期待します。
※授業の中で、実務家講師による具体的な事例の紹介についても試みる予定。そのため、シラバス記載の内容が変更になる可能性がある。</td></tr>
<tr><th colspan="6">【履修条件】</th></tr>
<tr><td colspan="6">なし</td></tr>
<tr><th colspan="6">【注意事項】</th></tr>
<tr><td colspan="6">なし</td></tr>
</table>

令和 6 年度前期聴講生開講科目 概要及び開講時期

<table>
<tr><th colspan="6">科目名</th></tr>
<tr><td colspan="6">マーケティング A<福山市開講></td></tr>
<tr><th colspan="6">担当教員</th></tr>
<tr><td colspan="6">江戸 克栄
岡田 浩一</td></tr>
<tr><th>配当年次</th><th>単位数</th><th>科目区分</th><th>開講時期</th><th>曜日</th><th>時限</th></tr>
<tr><td>1 年</td><td>1</td><td>基礎</td><td>第1クォーター
隔週前半
（4 月～6 月）</td><td>土曜</td><td>1･2 限（09:00-12:10）</td></tr>
<tr><th colspan="6">授業の概要</th></tr>
<tr><td colspan="6">ビジネスを取り巻く市場や環境が激しく変化している現代社会において、企業が存続・ 成長していくためにマーケティングの重要性は今まで以上に増している。そのため、本講義では、伝統的マーケティングマネジメントだけではなく、近年重要性を増してきている、 顧客志向、関係構築、グローバル化、情報化社会とマーケティングをテーマとする。講義 で扱う事例は広範囲にわたっており、そこからマーケティングそしてその基本的プロセス を体系的に習得する。</td></tr>
<tr><th colspan="6">【備 考（履修上のアドバイス・禁止行為等）】</th></tr>
<tr><td colspan="6">マーケティング入門を受講されることが望ましい。
積極的な姿勢で授業に臨むこと。</td></tr>
<tr><th colspan="6">【履修条件】</th></tr>
<tr><td colspan="6">経営学部や商学部でのマーケティングの基本部分を理解しているという前提で授業を進めます。よって、次のような方は、別途実施予定の「マーケティング入門」を受講すること。
（「マーケティングA」を受講される方には当講座をご受講頂けるようご案内いたします））
①マーケティングミックス（4P）を言えない ②市場細分化と市場ターゲットを説明できない
③今まで、マーケティングの授業を受けた記憶がない</td></tr>
<tr><th colspan="6">【注意事項】</th></tr>
<tr><td colspan="6">「マーケティング A」の履修が「マーケティング B」（後期開講予定）の履修条件となるため、履修を検討している方は「マーケティング A」を先に履修ください。</td></tr>
</table>

令和 6 年度前期聴講生開講科目　概要及び開講時期

<table>
<tr><th colspan="6">科目名</th></tr>
<tr><td colspan="6">マーケティング演習<福山市開講></td></tr>
<tr><th colspan="6">担当教員</th></tr>
<tr><td colspan="6">江戸　克栄
岡田　浩一</td></tr>
<tr><th>配当年次</th><th>単位数</th><th>科目区分</th><th>開講時期</th><th>曜日</th><th>時限</th></tr>
<tr><td>１年</td><td>1</td><td>基礎</td><td>第1クォーター
隔週前半
（4 月～6 月）</td><td>土曜</td><td>3･4 限（13:00-16:10）</td></tr>
<tr><th colspan="6">授業の概要</th></tr>
<tr><td colspan="6">ビジネスを取り巻く市場や環境が激しく変化している現代社会において、企業が存続・ 成長していくためにマーケティングの重要性は今まで以上に増している。そのため、本演習では、伝統的マーケティングマネジメントだけではなく、近年重要性を増してきている、 顧客志向、関係構築、グローバル化、情報化社会とマーケティングをテーマとして、議論やディスカッションを行う。ここで扱う事例は広範囲にわたっており、そこからマーケティングそしてその基本的プロセスを体系的に習得する。</td></tr>
<tr><th colspan="6">【備　考（履修上のアドバイス・禁止行為等）】</th></tr>
<tr><td colspan="6">マーケティング入門を受講しておくことが望ましい。積極的な姿勢で授業に臨むこと。</td></tr>
<tr><th colspan="6">【履修条件】</th></tr>
<tr><td colspan="6">「マーケティング A」を履修すること。</td></tr>
<tr><th colspan="6">【注意事項】</th></tr>
<tr><td colspan="6">なし</td></tr>
</table>

令和 6 年度前期聴講生開講科目　概要及び開講時期

<table>
<tr><th colspan="6">科目名</th></tr>
<tr><td colspan="6">特別研究 B（IoT 社会のビジネス創造）</td></tr>
<tr><th colspan="6">担当教員</th></tr>
<tr><td colspan="6">土本　康生</td></tr>
<tr><th>配当年次</th><th>単位数</th><th>科目区分</th><th>開講時期</th><th>曜日</th><th>時限</th></tr>
<tr><td>2 年</td><td>2</td><td>応用</td><td>第5・6 クォーター
隔週
※別紙参照</td><td>土曜</td><td>1・2 限（09:00-12:10）</td></tr>
<tr><th colspan="6">授業の概要</th></tr>
<tr><td colspan="6">本授業では、IoT（Internet of Things）がどういうものであるのか、その考え方を理解することを第一の目的とする。また、技術の細かなところにあまり入りすぎないように気をつけつつも経営者として知っておいて欲しいレベルの技術を学ぶ。IoT を利用したどのようなサービスが存在するのかを調査した上で、実装や実現をイメージしつつ IoT を利用したサービスを自分で考案してもらう。
なお、当該分野は教科書となるような書籍が存在しない。参考文献に挙げた書籍や授業内で提示する動画や資料に触れることで IoT の全体像をつかんでもらいたい。参考文献の購入は必須ではないが、図書館で借りるなどして可能な限り目を通すことを勧める。</td></tr>
<tr><th colspan="6">【備　考（履修上のアドバイス・禁止行為等）】</th></tr>
<tr><td colspan="6">・私語厳禁。質問や疑問、意見など授業に関連することであれば手を挙げみんなの前で発表すること。私語ではないクラス全体を巻き込む積極的な発言を望む。
・授業資料の配布や諸連絡は Microsoft Teams を使用する。
・授業内でインターネットを利用した情報検索・整理をすることもある。可能であればノートコンピュータを持参すること。タブレットやスマートフォンの利用も認めるが、作業効率の観点からノートコンピュータの利用をお勧めする。</td></tr>
<tr><th colspan="6">【履修条件】</th></tr>
<tr><td colspan="6">なし</td></tr>
<tr><th colspan="6">【注意事項】</th></tr>
<tr><td colspan="6">なし</td></tr>
</table>

令和６年度前期聴講生開講科目　概要及び開講時期

科目名					
医療介護の事業経営					
担当教員					
的打　英明					
配当年次	単位数	科目区分	開講時期	曜日	時限
２年	2	専門	第６クォーター （６月～８月）	火曜	6･7 限(18:30-21:30)
授業の概要					
本講義では、診療報酬と介護保険報酬を収入の基軸とした医療介護施設経営の実際を学ぶ。 財務諸表等を見ながら、経営課題を分析し、医療介護事業独特の経営分析手法の取り扱いを説明しする。 医療介護経営について講義した後、演習では、事前学習として調べてきた類似事例を含め、経営課題に適した解決手法や、課題解決のための効果的な手法にについて、グループに分かれ討議する。 医療業態、介護業態の類別を行い、親和性、独自性を活かした創造的な事業経営モデルを説明できる事を目指す。					
【備　考(履修上のアドバイス・禁止行為等)】					
医療及び介護施設の経営に関心があり、経営課題の分析や課題解決に関心を持っていることが望ましい。					
【履修条件】					
なし					
【注意事項】					
なし					

令和 6 年度前期聴講生開講科目　概要及び開講時期

科目名					
戦略としての社会システムデザイン					
担当教員					
横山　禎徳					
配当年次	**単位数**	**科目区分**	**開講時期**	**曜日**	**時限**
1 年	2	応用	第 2 クォーター （6 月～8 月）	水曜	6・7 限（18:30-21:30）
授業の概要					
「社会システム・デザイン」は新しい戦略立案手法である。従って、基本的な戦略の考え方と立案には共通点がある。最初に「社会システム・デザイン」が重要であると考える時代背景とアプローチの大枠を説明し、続いて通常の戦略立案との共通部分を、伝達の規律と方法を含めて理解を促す。 その後、「社会システム・デザイン」の例をいくつかを議論し、Abductive なアプローチ、中核課題の発見、サブシステムの考え方等の実例を議論する。 そして、その作業を支えるプロフェショナルの考え方を説明し、「社会システム・デザイナー」の職能をを考える。 最後に、最近の急速な技術の展開とそれに影響される人間観のパラダイム・シフトというべき変容の仮説を提示、それに応じた「社会システム・デザイン」の修正の必要性を説明する。 講義と平行して「社会システム・デザイン」の演習を行う。結果のフィードバックを何度も行い、講義だけではわからない「身体知」の獲得の実践の経験を身に着ける。					
【備　考（履修上のアドバイス・禁止行為等）】					
経営戦略は学問というより高度技能であり、「身体知」であるから、単に頭での理解ではなく具体的に手を動かして、いわば、体全体で理解するようにする。					
【履修条件】					
なし					
【注意事項】					
なし					

令和６年度前期聴講生開講科目　概要及び開講時期

<table>
<tr><th colspan="6">科目名</th></tr>
<tr><td colspan="6">デザインマネジメント</td></tr>
<tr><th colspan="6">担当教員</th></tr>
<tr><td colspan="6">百武　ひろ子</td></tr>
<tr><th>配当年次</th><th>単位数</th><th>科目区分</th><th>開講時期</th><th>曜日</th><th>時限</th></tr>
<tr><td>２年</td><td>1</td><td>専門</td><td>第６クォーター
前半
（６月～７月）</td><td>水曜</td><td>６･７限（18:30-21:30）</td></tr>
<tr><th colspan="6">授業の概要</th></tr>
<tr><td colspan="6">感性的価値の重視を背景に、デザインへの関心は高まりつつある。デザインに対する関心は、モノの外観の美しさといった、狭義のデザインにとどまらず、サービスのデザイン、関係性のデザイン、システムデザイン、プロセスデザインなど多岐にわたっている。矛盾する要素、異なるニーズを統合し、目にみえるかたちで問題解決を行うというデザインの基本機能は、ビジネスにも積極的に導入されている。
本授業では、現代社会に求められている「デザイン」の機能とビジネスにおけるデザインマネジメントについて実例を通して理解を深め,ビジネスリーダーに求められるデザインマネジメント力を身につけることを目的としている。授業の最後には、デザインマネジメントのプレゼンテーションを行う。</td></tr>
<tr><th colspan="6">【備　考（履修上のアドバイス・禁止行為等）】</th></tr>
<tr><td colspan="6">異なる分野の第一線で活躍するゲスト講師を迎えて実践的な授業を行う。</td></tr>
<tr><th colspan="6">【履修条件】</th></tr>
<tr><td colspan="6">なし</td></tr>
<tr><th colspan="6">【注意事項】</th></tr>
<tr><td colspan="6">なし</td></tr>
</table>

令和６年度前期聴講生開講科目　概要及び開講時期

<table>
<tr><th colspan="6">科目名</th></tr>
<tr><td colspan="6">地域ブランド戦略</td></tr>
<tr><th colspan="6">担当教員</th></tr>
<tr><td colspan="6">樫野　孝人</td></tr>
<tr><th>配当年次</th><th>単位数</th><th>科目区分</th><th>開講時期</th><th>曜日</th><th>時限</th></tr>
<tr><td>２年</td><td>1</td><td>専門</td><td>第６クォーター
後半
（7 月～8 月）</td><td>水曜</td><td>6･7 限（18:30-21:30）</td></tr>
<tr><th colspan="6">授業の概要</th></tr>
<tr><td colspan="6">地域資源を活かした事業立案や、シティプロモーション、シビックプライドの醸成など、地域活性化やまちづくりに地域ブランドが不可欠な要素になってきている。つまり、地域ブランドが確立された地域での起業は発射台が高く、スタートダッシュがしやすい状況になる。また、地域ブランド戦略、経営戦略、商品戦略など全てにクリエイティブな発想が求められる中、本授業では、官民が連携し、事業や商品を創造するための考え方やアプローチ方法を実例を通して理解を深めることを目的とする。国内の地域ブランド戦略のケーススタディを通して、多角的かつ実践的に学びながら、ビジネスリーダーに求められるブランド戦略立案力を身につける。授業の最後には、地域ブランド戦略や商品ブランド戦略の立案をし、プレゼンテーションを行う。</td></tr>
<tr><th colspan="6">【備　考（履修上のアドバイス・禁止行為等）】</th></tr>
<tr><td colspan="6">地域ブランド戦略の第一線で活躍するゲスト講師を迎えて実践的な授業を行う。
授業内で、個人発表をする機会が多いので、PC,タブレット等を持ち込んで操作できること。</td></tr>
<tr><th colspan="6">【履修条件】</th></tr>
<tr><td colspan="6">一定程度の PC スキル</td></tr>
<tr><th colspan="6">【注意事項】</th></tr>
<tr><td colspan="6">なし</td></tr>
</table>

令和 6 年度前期聴講生開講科目　概要及び開講時期

<table>
<tr><th colspan="6">科目名</th></tr>
<tr><td colspan="6">ファイナンス基礎</td></tr>
<tr><th colspan="6">担当教員</th></tr>
<tr><td colspan="6">高橋　陽二</td></tr>
<tr><th>配当年次</th><th>単位数</th><th>科目区分</th><th>開講時期</th><th>曜日</th><th>時限</th></tr>
<tr><td>1 年</td><td>1</td><td>基礎</td><td>第 2 クォーター
隔週前半
（4 月～6 月）</td><td>木曜</td><td>6・7 限（18:30-21:30）</td></tr>
<tr><th colspan="6">授業の概要</th></tr>
<tr><td colspan="6">ファイナンスとは、金融市場に関わるあらゆる人々に対して意思決定を支援するために構築されてきた。一般的な MBA では、主としてコーポレートファイナンス（該当科目「ファイナンス A」「ファイナンス B」）を扱うが、ファイナンスに共通する基本的な知識及び考え方がある。
「ファイナンス基礎」では、これまでファイナンスを勉強したことがない人やファイナンスを最初から学び直したい人等の初学者を対象に、上記したファイナンスに共通する基本的な知識及び考え方をしっかり丁寧に勉強する。ファイナンスの基礎を固めることを重視する。そのため、中間試験及び期末試験に対する成績評価の割合が大きい。</td></tr>
<tr><th colspan="6">【備　考（履修上のアドバイス・禁止行為等）】</th></tr>
<tr><td colspan="6">初学者に向けていくつか参考文献を紹介する。
新書であれば、石野雄一『ざっくり分かるファイナンス』（光文社、2007 年）、森生明『会社の値段』（筑摩書房、2006 年）が、昔からよく読まれている。著書では、新倉祐介『ファイナンス思考』（ダイヤモンド社、2018 年）、同『ゼロからわかるファイナンス思考』（講談社、2022 年）、石野雄一『超ざっくり分かるファイナンス』（光文社、2022 年）はよく出来ている。担当教員が関わった著書である『知識の基盤になるファイナンス』（共著、中央経済社、2018 年）も参考になるだろう。なお、授業の内容は、履修者の関心や理解度に応じて変更する可能性がある。</td></tr>
<tr><th colspan="6">【履修条件】</th></tr>
<tr><td colspan="6">なし</td></tr>
<tr><th colspan="6">【注意事項】</th></tr>
<tr><td colspan="6">本科目には履修条件はありませんが、「ファイナンス基礎」と「ファイナンス A」（後期開講予定）の内容の理解が「ファイナンス B」（後期開講予定）の履修条件となるため、履修を検討している方は「ファイナンス基礎」を先に履修ください。</td></tr>
</table>

令和６年度前期聴講生開講科目　概要及び開講時期

科目名					
中四国経済					
担当教員					
高橋　龍二					
配当年次	**単位数**	**科目区分**	**開講時期**	**曜日**	**時限**
１年	1	基礎	第２クォーター 隔週後半 （4 月～6 月）	金曜	6･7 限（18:30-21:30）
授業の概要					
第 1･2 回目：中四国圏域における経済発展の歴史や国土交通省の国土計画に基づく中四国エリアのインフラ，経済スケール，圏域の現状と課題などをマクロ的視点で包括的に理解する。 第 3･4 回目：中四国圏域内の主要都市の経済圏域（都市圏，商圏，交流人口など）と，相対的な位置付け（都市力評価，地域力評価）の評価と，各自治体の掲げる都市圏構想等について，都市形成の基本理論（都市経済学，統計学など）に基づきミクロ的視点で理解する。 第 5･6 回目：産業連関計算，人口配置，海外事例（例えばドイツなど）も参考に，地域の経済発展をプランニングする上で役に立つ手法を学び，実習する。 ※ここで学んだ手法等活用し，テーマ設定，グループ分けを行い，4 日目の課題（自ら考える経済発展方策）を課す。 第 7･8 回目：将来に向けた課題解決として，特に広島県の物流課題や産業構造の現状を踏まえ，方策を考える。なお，学生自らが課題解決に向けた方策の提案（協同提案によるプレゼンテーションも可）を行い，試験とする。					
【備　考（履修上のアドバイス・禁止行為等）】					
何かを学ぶというより，ともに考えるという姿勢で積極的に参加してください。 毎回，事前に読んでおいて欲しい文献等紹介と，講義後の簡単なレポート（500 字程度）を課す予定です。					
【履修条件】					
なし					
【注意事項】					
本授業は、試験として最終日に広島県経済の課題解決に向けた提案（プレゼンテーション）を課していますが、聴講生は、試験を課さないことがあります。					

令和６年度前期聴講生開講科目　概要及び開講時期

<table>
<tr><th colspan="6">科目名</th></tr>
<tr><td colspan="6">特別研究 A（グローバルビジネスマネジメント）</td></tr>
<tr><th colspan="6">担当教員</th></tr>
<tr><td colspan="6">毛利　信作</td></tr>
<tr><th>配当年次</th><th>単位数</th><th>科目区分</th><th>開講時期</th><th>曜日</th><th>時限</th></tr>
<tr><td>２年</td><td>２</td><td>専門</td><td>第６クォーター
（６月～８月）</td><td>金曜</td><td>６･７限（18:30-21:30）</td></tr>
<tr><th colspan="6">授業の概要</th></tr>
<tr><td colspan="6">本授業は、グローバル化の影響から免れる事の出来ない略全ての現代企業に働く履修生が、これまで知り得なかったグローバル社会での常識や実態、それへの対処法などを事例研究を通して習得する事を目的としている。とは言っても、グローバルビジネスは多種多様であり、マネジメントの、或いは成功の方程式は無く、履修生自らが課題に対する応用力を強化する以外に無い。講師のこれまでのグローバルビジネスでのマネジメント経験や、グローバルビジネスでの TOP 人材である外部招聘講師の知見に基づき提示される事例や命題を、履修生自らが当事者となったつもりで分析し、考え抜く事で、グローバルビジネスへの対応力を高めて行けるよう、今年度からはグループワークやディベートを増やしていく。</td></tr>
<tr><th colspan="6">【備　考（履修上のアドバイス・禁止行為等）】</th></tr>
<tr><td colspan="6">本講義はグローバルビジネス、及びマネジメントの基礎を習得した者を原則対象としている。尚、外部講師を招聘しての講義に関しては、日程の変更や講師の変更もあり得るが、講義内容はシラバスに沿った内容とする。</td></tr>
<tr><th colspan="6">【履修条件】</th></tr>
<tr><td colspan="6">なし</td></tr>
<tr><th colspan="6">【注意事項】</th></tr>
<tr><td colspan="6">グローバルビジネスの経験がある事が望ましい。英語の読解力が必要</td></tr>
</table>

令和６年度前期聴講生開講科目　概要及び開講時期

<table>
<tr><th colspan="6">科目名</th></tr>
<tr><td colspan="6">企業法務</td></tr>
<tr><th colspan="6">担当教員</th></tr>
<tr><td colspan="6">安達　巧</td></tr>
<tr><th>配当年次</th><th>単位数</th><th>科目区分</th><th>開講時期</th><th>曜日</th><th>時限</th></tr>
<tr><td>１年</td><td>1</td><td>基礎</td><td>第１クォーター
前半
（6 月～7 月）</td><td>土曜</td><td>1･2 限（09:00-12:10）</td></tr>
<tr><th colspan="6">授業の概要</th></tr>
<tr><td colspan="6">企業は、事業活動を通じて企業価値を継続的に増大させることが求められているが、近年は、企業を取り巻くリスクの裾野が、法的なリスクを中心にレピュテーションリスクやブランド毀損リスク等まで広がっている。
そのような環境下での企業経営は、会社法をはじめとする各種法令を遵守しつつ、多様なステークホルダーの要請にも留意しながら進める必要がある。
この授業は、企業等におけるリーダーとしてビジネスを進めるに際して必須となる法的思考力や法的知識の獲得を目標とする。担当教員による一方通行の講義ではなく、受講生全員によるディスカッションも積極的に取り入れる。なお、2コマ（1日）はゲストスピーカー（弁護士を予定）を招き、企業法務に関する最新の実務等についても学ぶ。</td></tr>
<tr><th colspan="6">【備　考（履修上のアドバイス・禁止行為等）】</th></tr>
<tr><td colspan="6">①HBMS は専門職大学院であり、大学の学部やカルチャーセンターではない。したがって、当たり前のことだが、本授業は「大学院」の単位認定に相応しい内容及び水準で進む。
②企業活動は「法律行為の集合体」であるから、法律を知らないということはルールを知らずにゲームをプレイすることに等しい。法律（企業法務）を武器として戦略的に活用できたほうが企業間競争を有利に戦える。③真のビジネスリーダーは、法務、税務、ファイナンス、会計がマネジメントでは重要な点を理解している。④経営修士（専門職）学位保有者として恥かしくない法知識と論理的思考力を獲得したいとの意思を持つ学生の受講を歓迎する。</td></tr>
<tr><th colspan="6">【履修条件】</th></tr>
<tr><td colspan="6">会社法の基礎を概ね理解している</td></tr>
<tr><th colspan="6">【注意事項】</th></tr>
<tr><td colspan="6"></td></tr>
</table>

令和６年度前期聴講生開講科目　概要及び開講時期

<table>
<tr><th colspan="6">科目名</th></tr>
<tr><td colspan="6">組織マネジメントとコンプライアンス</td></tr>
<tr><th colspan="6">担当教員</th></tr>
<tr><td colspan="6">安達　巧</td></tr>
<tr><th>配当年次</th><th>単位数</th><th>科目区分</th><th>開講時期</th><th>曜日</th><th>時限</th></tr>
<tr><td>１年</td><td>1</td><td>基礎</td><td>第１クォーター
後半
（7 月～8 月）</td><td>土曜</td><td>1･2 限（09:00-12:10）</td></tr>
<tr><th colspan="6">授業の概要</th></tr>
<tr><td colspan="6">近年、組織マネジメントにおいてはコンプライアンスを求める動きが進み、 自社での適正な体制、組織作り及び整備を行うこと等が求められている。具体的には、組織秩序を守るための組織内ルール（社内規程等）を定める、コンプライアンスに関する研修や教育を行う、 内部通報窓口を設置する等、多岐に及んでいる。　加えて、ルールや価値観の変更が、従来であれば無関係と思われた部署にまで影響を与え始めている。　この授業では、労働法にも触れながら組織マネジメントとコンプライアンスについて学ぶ。担当教員による一方通行の講義ではなく、受講生全員によるディスカッションも積極的に取り入れる。なお、1コマはゲストスピーカー（組織のトップを予定）を招き、組織マネジメントとコンプライアンスに関する最新の実務等についても学ぶ。</td></tr>
<tr><th colspan="6">【備　考（履修上のアドバイス・禁止行為等）】</th></tr>
<tr><td colspan="6">①「企業法務」を履修済みであることが望ましい。
②コンプライアンス経営は「法令遵守」にとどまらず、倫理を含む社会規範等も遵守する経営である。米国のビジネススクールではビジネス倫理に関する授業が必修であり、MBA 学位保有者はコンプライアンス意識が高いと考えられる。真のビジネスリーダーとして、また、経営修士（専門職）学位取得者として相応しい素養を身に付けたいとの意思を持つ学生の受講を歓迎する。
③説明の順番等、授業内容については若干の変更もあり得る（授業時に事前告知する）。</td></tr>
<tr><th colspan="6">【履修条件】</th></tr>
<tr><td colspan="6">会社法の基礎を概ね理解している</td></tr>
<tr><th colspan="6">【注意事項】</th></tr>
<tr><td colspan="6"></td></tr>
</table>

令和６年度前期聴講生開講科目　概要及び開講時期

<table>
<tr><th colspan="6">科目名</th></tr>
<tr><td colspan="6">アカウンティング</td></tr>
<tr><th colspan="6">担当教員</th></tr>
<tr><td colspan="6">中川　隆喜</td></tr>
<tr><th>配当年次</th><th>単位数</th><th>科目区分</th><th>開講時期</th><th>曜日</th><th>時限</th></tr>
<tr><td>１年</td><td>２</td><td>基礎</td><td>第２クォーター
（６月～８月）</td><td>土曜</td><td>3･4 限(13:00-16:10)</td></tr>
<tr><th colspan="6">授業の概要</th></tr>
<tr><td colspan="6">企業を取り巻く環境や市場が著しく変化する現代社会において、企業が存続・成長していくためには、企業の経営成績および財政状態の正確な分析と迅速な意思決定が必要となります。
本講義においては、会計の専門的な知識を身に付けるのではなく、経営者やプロジェクトマネージャーとして、経営戦略の策定や意思決定を行う際に必要とされる最低限のアカウンティング能力を身に付ける事に主眼を置きます。</td></tr>
<tr><th colspan="6">【備　考(履修上のアドバイス・禁止行為等)】</th></tr>
<tr><td colspan="6">授業は電卓を利用する機会があります。※シンプルな機能の電卓で構いません。
授業中、随所で自分の意見を述べてもらう機会を作ります。
いつ発言を求められても良いように、常に考えながら授業に臨んで下さい。</td></tr>
<tr><th colspan="6">【履修条件】</th></tr>
<tr><td colspan="6">なし</td></tr>
<tr><th colspan="6">【注意事項】</th></tr>
<tr><td colspan="6">なし</td></tr>
</table>

令和６年度前期聴講生開講科目　概要及び開講時期

<table>
<tr><th colspan="6">科目名</th></tr>
<tr><td colspan="6">医療介護のイノベーション</td></tr>
<tr><th colspan="6">担当教員</th></tr>
<tr><td colspan="6">遠藤　邦夫</td></tr>
<tr><th>配当年次</th><th>単位数</th><th>科目区分</th><th>開講時期</th><th>曜日</th><th>時限</th></tr>
<tr><td>２年</td><td>２</td><td>専門</td><td>第６クォーター
（６月～８月）</td><td>土曜</td><td>3･4 限(13:00-16:10)</td></tr>
<tr><th colspan="6">授業の概要</th></tr>
<tr><td colspan="6">新型コロナウイルス感染症の拡大によってわが国の医療制度の大きな課題が浮かび上がることになった。それまでは国民皆保険制度を維持するために医療従事者に多大な負担を強いてきたが、そのことがコロナ禍の医療提供体制を混乱させることになったからだ。病床数の多さではなく、役割分担や集約化できない医療従事者数や制度の課題が新型コロナウイルス感染症の急速な拡大によって浮かび上がることになった。
また、コロナ以前から課題となっていた公立病院や公的病院の統廃合についても思うように進展していない。政府としては、待ったなしの人口減少社会においてその対応策を急がなければ、わが国の医療提供体制がこれまで以上に歪みを生じさせることとなり、超高齢社会を乗り切ることが困難になる。
このような状況下で、わが国では地域医療構想、医師の働き方改革、医師の地域偏在化の是正が同時並行で推進されている。だが、いずれの課題も容易に解決策を見出すことができない。このままでは、暫定的な対応を繰り返すことになる。
一方、わが国において政府の後押しを背景にして医薬分業が急速に進展してきた。最近では、大学病院や公立病院など地域の基幹病院の敷地内薬局が急増し、ドラッグストアなども調剤事業を拡大し、競争環境も変化している。
しかし、医療関係者だけではなく国民からも現在の医薬分業のあり方について疑問が投げかけられ、調剤報酬改定などで急成長を続けてきた調剤薬局は、これまでのあり方の見直しを迫られることになった。それにもかかわらず薬局数の増加傾向は続いている。早急にそのあり方の見直しを行わなければ、薬局や薬局薬剤師に対する国民の厳しい眼を改善することができない。
わが国でも医療介護分野においてデジタル化の波が急速に押し寄せている。待ったなしの人口減少社会が到来する状況下においては、デジタルをいかに有効に活用し、医療や介護の質を上げ、経営の安定化にもつなげることができるかが大きな課題解決につながることになる。デジタル化の進展は、医療介護分野へ異業種企業の参入を可能にすることでもある。すでに米国ではグーグルやアップル、アマゾンなどさまざまな巨大デジタル企業が医療関連市場参入し、制度の壁を乗り越え医療介護分野に多大な影響を及ぼすことが予想されている。わが国でも同様の動きが加速されることが予想される。
以上のことから授業では今後、すでに示された政策や新たな動きがどのような方向に向かい、医療・介護施設、薬局がどのように変化することになる、あるいは医療・介護施設に代わる新たな施設が生まれている実例などを提示し、考察する。その際、場合によっては関連する政策や事業に詳しい専門家をゲスト講師陣として招き、今後の展望について講師とともに討議することで自身の学びを深くしてもらうこと</td></tr>
</table>

も検討する。
【備　考(履修上のアドバイス・禁止行為等)】
医療及び介護施設の経営や市場分析に関心があり、今後の変化を体系化することに関心を持っていることが望ましい。
【履修条件】
なし
【注意事項】
なし

令和６年度前期聴講生開講科目　概要及び開講時期

<table>
<tr><th colspan="6">科目名</th></tr>
<tr><td colspan="6">ベンチャーの経営戦略</td></tr>
<tr><th colspan="6">担当教員</th></tr>
<tr><td colspan="6">古我　知史</td></tr>
<tr><th>配当年次</th><th>単位数</th><th>科目区分</th><th>開講時期</th><th>曜日</th><th>時限</th></tr>
<tr><td>１年</td><td>２</td><td>基礎</td><td>夏季集中
（8月～9 月）
※別紙参照</td><td>集中</td><td>※別紙参照</td></tr>
<tr><th colspan="6">授業の概要</th></tr>
<tr><td colspan="6">先ずは、そもそもの現代社会の資本主義経済での成長とは何かを一緒に考えることから始め、ベンチャーのライフサイクルやベンチャーの実際について知識として学ぶ。次に、未来の事業機会をつかむための鍵となる勃興するベンチャー（ユニコーン含む）の事例研究や第四次産業革命と背景となるテクノロジーの解釈や自主探索研究を行い、これらの活動をもとにグループ分けしたワークショップで疑似的起業活動に入る。ワークショップでは着眼セッションを実際のベンチャーコミュニティでのアプローチ手法を利用して取り組み、仮説を発散させ、論理的に収れんしつつストーリープロトタイピングを通して検証することで、一つの有望な事業仮説とビジネスモデルに落とし込む。ベンチャーの経営戦略において基本となる戦略やマーケティング、ビジネスモデル、ファイナンスのエッセンスは講義と自習を通して主体的に会得する。また、現在進行形のベンチャーコミュニティで活躍するアントレプレナーやベンチャーキャピタリストなどのゲストスピーカーとの交流を通じて生の現場からのインスピレーションと示唆を得る。これら全体がシナジーをもって融合することで、アントレプレナーシップと起業を左脳と右脳と心とともに体得する。</td></tr>
<tr><th colspan="6">【備　考（履修上のアドバイス・禁止行為等）】</th></tr>
<tr><td colspan="6">自ら起業を目指す者、ベンチャー企業の執行役員志向の者、家業の継承発展を目指す者、組織の中にあって革新的な事業開発を目指す者を主に対象とする。未知の未来の新しいビジネスの可能性を、楽しみながら本質的に考え抜き、仲間と共に議論を尽くしながらとことん追求する、意志を持った好奇心に溢れる人財の参画を望む。パソコンやスマホはワークショップ中に利用するので必携とする。</td></tr>
<tr><th colspan="6">【履修条件】</th></tr>
<tr><td colspan="6">起業、新規事業開発に取り組み、アントレプレナーシップのマインドと志のある者のみが対象です</td></tr>
<tr><th colspan="6">【注意事項】</th></tr>
<tr><td colspan="6">オンライン実施の回と対面実施の回のハイブリッドで行います。これに合わせられる者のみ対象とします。（オンラインの回はオンライン、対面の回は対面で出席すること）</td></tr>
</table>

令和 6 年度前期聴講生開講科目　概要及び開講時期

科目名					
特別研究 H（医薬流通のイノベーション）					
担当教員					
遠藤　邦夫					
配当年次	単位数	科目区分	開講時期	曜日	時限
2 年	2	専門	夏季集中 （8 月～9 月） ※別紙参照	集中	※別紙参照
授業の概要					

これまで成長を持続してきた日本の製薬企業もグローバルな競争環境下において厳しい経営を強いられている。新型コロナウイルスのワクチンや治療薬の開発では大きく出遅れてしまった。海外の大手製薬企業との開発力の差を見せつけられた。その中で中国の製薬企業の開発力も侮れなくなっており、日本の製薬企業も厳しい戦いを強いられている。

これまで一定の成果を挙げてきた国内大手・中堅製薬企業各社は、低分子医薬品開発から抗体医薬、分子標的医薬品、遺伝子治療薬の開発へとモダリティ（治療手段）を重視した開発へと大きく舵を切ることになった。そのため研究開発のあり方を独自開発からオープンイノベーションを積極的に行うことになった。それに対して外資系製薬企業は国内製薬企業に先んじて時代変化に対応した研究開発体制を整え新薬を次々と市場に投入し、日本市場においてその存在感を高めている。そのような外資系企業の中には自社の都合に適合した流通に変えようとする動きが出てきた。このような動きは、現時点ではどこまで拡大するかは不明であるが、今後の医薬品サプライチェーンのあり方に影響を及ぼすことになる。さらに新型コロナウイルス感染症の世界的規模での拡大により、これまでの世界規模での医薬品サプライチェーンのあり方も経済安全保障の観点から早期に見直しを行う必要が急務となった。

一方、20 世紀の製薬・医薬品卸業界のビジネスモデルは、医療提供体制や医薬品使用のあり方、薬価制度などが大きく変化している状況下で、見直しを迫られている。そのため 21 世紀の業界の事業のあり方は、その時代にふさわしいプレーヤーによって新たな市場が形成されることになる。医薬品サプライチェーンにおける主要プレーヤーとして医薬品卸が挙げられるものの、デジタル治療の進展やスペシャリティ医薬品の急増などにより、新規に参入する企業がその存在感を高めることも予想される。もし医薬品卸がこれまでの事業のあり方を大きく変革することに躊躇するようであるならば、その間に新たな勢力が台頭し、市場の勢力図を大きく塗り替えてしまいかねない。

また、日本においても多くのデジタル関連企業がヘルスケア事業にさまざまな形で乗り出してきている。それだけ異業種企業はヘルスケアに関する事業を有望視している。だが、それらの企業の多くは医薬品卸との関係が希薄である。しかしながら医薬品卸が持ち合わせていない有する異業種企業のデジタル技術は、医薬品卸各社が将来の経営体質強化のために構築しようとしているヘルスケアプラットホーム構築において不可欠な存在となっている。そのため大手医薬品卸はさまざまなデジタル企業に対して提携や資金提供などを行い事業化に向けて動き出している。

そこで授業においては、日本の医薬品及び医療機器等サプライチェーンの変革状況、さらにはそのよ

うな状況下で医薬品卸が事業を持続するためにどのような経営を展開しているかということについて実状を踏まえて講義する。加えてそのことを補完するために関連する企業経営者もしくは幹部を招いて討議し、その過程で自身の学びを深くしてもらいたい。
【備　考（履修上のアドバイス・禁止行為等）】
医薬品サプライチェーンやデジタル治療などヘルスケアの幅広い分野に平素から関心を持っている、あるいはすでにこのような分野に関わっていて問題意識を持っていることが望ましい。
【履修条件】
なし
【注意事項】
なし

令和６年度前期聴講生開講科目　概要及び開講時期

<table>
<tr><th colspan="6">科目名</th></tr>
<tr><td colspan="6">特別研究 D（マネジメントアカウンティング）</td></tr>
<tr><th colspan="6">担当教員</th></tr>
<tr><td colspan="6">七田　良彦</td></tr>
<tr><th>配当年次</th><th>単位数</th><th>科目区分</th><th>開講時期</th><th>曜日</th><th>時限</th></tr>
<tr><td>２年</td><td>２</td><td>専門</td><td>夏季集中
（８月～９月）
※別紙参照</td><td>集中</td><td>※別紙参照</td></tr>
<tr><th colspan="6">授業の概要</th></tr>
<tr><td colspan="6">アカウンティングの基礎を学んだ履修者が、マネジメントアカウンティングのツールを活用し会社の経営を数値で見ていくことを学ぶ。特に、見るべき数値が事業のビジネスモデルにより異なること、事業のビジネスモデルとリスクを理解し事業に則した数値管理の手法を適用していくことを実例を踏まえ学ぶ。また、財務諸表を見て、実例に触れることで、コース終了時に経営を会計と結びつけて見る力がついていることを目指す。</td></tr>
<tr><th colspan="6">【備　考（履修上のアドバイス・禁止行為等）】</th></tr>
<tr><td colspan="6">基礎科目におけるアカウンティングの単位を取得し、マネジメントにアカウンティングを活かすことに興味を持っている学生が対象。授業への積極的な参加、発言、質問を期待する。本講義の内容や講義内で紹介する業種、事例を通じ、数字、特に会計数値で経営を見ることが経営に資することを学び、修了後の実務に活かせる知見の習得を目指す。受講者がテーマを決め期末レポートを作成し講義最終日にプレゼンテーションを行ってもらう。卒業レポートに関連させて、マネジメントアカウンティングの手法を用い、分析・研究を深めることも可能。前半8コマを小川が、後半8コマを七田が担当、最終日のプレゼンテーションには、両名が参加。</td></tr>
<tr><th colspan="6">【履修条件】</th></tr>
<tr><td colspan="6">なし</td></tr>
<tr><th colspan="6">【注意事項】</th></tr>
<tr><td colspan="6">なし</td></tr>
</table>

令和６年度前期聴講生開講科目　概要及び開講時期

<table>
<tr><th colspan="6">科目名</th></tr>
<tr><td colspan="6">アジア型環境ビジネス創造</td></tr>
<tr><th colspan="6">担当教員</th></tr>
<tr><td colspan="6">礒貝　日月</td></tr>
<tr><th>配当年次</th><th>単位数</th><th>科目区分</th><th>開講時期</th><th>曜日</th><th>時限</th></tr>
<tr><td>２年</td><td>２</td><td>専門</td><td>夏季集中
（７月～８月）
※別紙参照</td><td>集中</td><td>※別紙参照</td></tr>
<tr><th colspan="6">授業の概要</th></tr>
<tr><td colspan="6">アジア諸国の範囲は広く、国・地域によって成長速度は異なるものの先進国を上回る成長率の高さに注目が集まっている。各国・地域が持続可能な発展を目指し、環境ビジネスの技術とマネジメントによりそれぞれの抱える課題をどのように克服しているのか、さらには世界経済を牽引する潜在性について具体的な事例をもとに実践を学び、各動向を分析する。 また、国や地域によって民族、文化、社会、法、慣習、制度、宗教、気候、風土などは異なり、それぞれの差異に目を向けるべく人類学の視座やフィールドワークの方法論について理解を深める。</td></tr>
<tr><th colspan="6">【備　考（履修上のアドバイス・禁止行為等）】</th></tr>
<tr><td colspan="6">・取り扱うアジア各国のケーススタディをもとに、「社会問題の分析」「解決策の立案」「解決策の影響評価」という一連のプロセスを事例ごとに分析する。そのため普段から海外ビジネスにおける日本企業や国際協力団体の存在意義や動向、プロダクト及びサービスの現状について関心を持って調べ、議論に参加することを期待する。
・お呼びする専門家・実務家のスケジュール調整の結果、取り扱う国やテーマが変更、回が前後する可能性がある。また、アンケートやワークショップの結果などから予定を変更する可能性がある。変更については初回の授業で説明する。
・授業はデュアル方式を予定しているが、ゲストスピーカーと海外から繋いだり、県外からの移動の都合によってはオンラインのみの実施の可能性がある。各回の実施方式について初回の授業で説明する。</td></tr>
<tr><th colspan="6">【履修条件】</th></tr>
<tr><td colspan="6">なし</td></tr>
<tr><th colspan="6">【注意事項】</th></tr>
<tr><td colspan="6">なし</td></tr>
</table>